

子宮頸癌ワクチンについて

みなさんは子宮頸癌ワクチンを知っていますか?子宮頸癌ワクチンは、子宮頸癌を予防するワクチンのことです。

子宮頸癌は、子宮頸部という子宮の入り口に発生する癌で、日本では年間15000 入の患者が新たに発生し、約 3500 人の方が死亡しています。特に 20～30 代の患者が増加しており、発がん性のヒトパピローマウイルス(HPV) の持続感染により発生すると言われていています。発がん性 HPV は感染しでも自然に排除されることが多いのですが、感染が持続すると一部が癌に進行すると考えられています。また、自然に排除されても何度も感染を繰り返します。発がん性 HPV には約 15 種類のタイプがありますが、その中でも 16 型・18 型が多いとされています。この 16 型・18 型のウイルスの感染を防ぐのが、子宮頸癌ワクチンなのです。

HPV の感染経路としては主に性交渉によります。15～19 歳の 32%がすでに発がん性 HPV に感染しているとの報告があり、その一部が癌へ進行しているのです。子宮頸癌ワクチンは感染を予防するためのものであって、感染した状態から癌へ進作するのを防いだり癌化した病変を治すためのものではありませんので、発がん性 HPV に感染する前の 10 代前半に子宮頸癌ワクチンを接種することで子宮頸癌の発症を効果的に予防できるとされています。また、感染後排除されても何度も感染を繰り返す性質も持っているため、次の感染予防という目的において、成人女性でも接種意義は十分にあると考えられています。

子宮頸癌ワクチンは 3 回打つことが推奨されています。初回接種から、1 か月後、6 か月後の予定となっています。3 回接種することで非常に高い抗体価が得られ、20 年間子宮頸癌を予防できると推測されます。現に、日本やヨーロッパで行われた臨床試験では、子宮頸癌ワクチンを接種した後、2 年～4 年間の間、HPV16 型・18 型の感染を 92.3～100%予防できたとの結果が出ています。

ワクチン接種後は、いくつか副反応が見られます。発赤・腫脹・硬結は自然

に改善するため、放置しても構いません。重篤な副反応としてはアナフィラキシーショック〈じんましん・呼吸困難・意識障害など〉が挙げられますが、これは接種後 30 分以内に起こることが多いため、30 分は経過観察をさせていただいています。

魅力的な子宮頸癌ワクチンですがワクチンを接種すると子宮頸癌に 100%ならないかといわれると、決してそうではありません。HPV16 型・18 型以外の発がん性 HPV に感染したり、HPV によらない子宮頸癌が存在するからです。ワクチン接種後も定期的な子宮頸癌検診が必要です。ワクチンで感染予防、さらに予防しきれなかった病変を検診で早期発見することにより、子宮頸癌からあなたの体をより確実に守りましょう！！

産婦人科 原 紗希

No.68 2011.4.1 発行 編集：教育・広報活動委員会